

大日本帝国海軍兵学校「五 省」

Five Reflection

Hast thou not

一、至誠（しせい）に悖（もと）るなかりしか
（誠実さに背いていなかったか）

Gone Against Sincerity

「それをしなければ」と思っているのに、何となく、後込みしてしまったところはないか。

① 真剣だったか

一、言行（げんこう）に恥（は）ずるなかりしか
（言動に恥ずかしい点はなかったか）

Felt Ashamed of Thy Word and Deeds

「あの人は口だけだ」とか「口ほどに手が動かない」とかいわれるようなところはなかったか。

② 言行は一致していたか

一、気力（きりょく）に缺（か）くるなかりしか
（精神力に欠いた点はなかったか）

Lacked Vigor

「仕事なんて二の次だ」などという気持ちは持たなかったか。

③ 覇気はあったか

一、努力（どりょく）に憾（うらみ）みなかりしか
（努力するのに心残りはなかったか）

Exerted All Possible-Efforts

初めから、「できない」と決めつけて、十分な努力もしないで、あきらめていなかったか。

④ 研鑽を積んだか

一、不精（ぶしょう）に亘（わた）るなかりしか
（怠けてものぐさになっていなかったか）

Become Slothful

「もうこれくらいで良い」と自己満足をしたり、手抜きはしなかったか。

⑤ 手を抜かなかったか

五省（ごせい）とは、旧大日本帝国海軍の士官養成機関であった広島県江田島の海軍兵学校（現在は海上自衛隊幹部候補生学校）において、生徒がその日の行ないを反省するために自らへ発していた5つの問いかけのこと。

考案者は当時兵学校校長であった松下元少将。